

高齢者介護施設における高齢期の就労に関する研究

1882005 伊藤 礼佳

指導教員 大原一興教授 藤岡泰寛准教授

1. 研究の背景・目的

我が国では高齢化が急速に進み、令和2年時点で総人口に占める割合（高齢化率）は28.8%となった。今後も、高齢化率は上昇を続け、令和47年には38.4%に到達すると推計されている。ⁱ 少子高齢化の進む我が国では、労働力不足と社会保障給付費の増大は喫緊の課題である。

こうした背景のなかで、高齢期の就労は重要なテーマとなりつつある。一方で、高齢期の就労は単なる労働力調達の観点に止まらず、健康維持、予防介護や生きがいの観点からも重視されており、人生100年時代と呼ばれる現代において、高齢者が培った能力や経験を生かし、生涯現役で活躍し続ける環境の整備が行われている。さらに、最近では、後期高齢者の増加に伴い要介護認定者・高齢者介護施設利用者の増加ペースが拡大している。ⁱⁱ 高齢期の就労の分野では定年を迎えたすぐの元気高齢者だけではなく、要介護者や認知症高齢者、高齢者介護施設利用者といった人々も生きがいを持って自分らしく働ける環境の整備が求められている。

そこで本研究では、実際に高齢者介護施設で行われている高齢期の就労^{注1}の取り組みの調査を通じ、高齢者介護施設利用者の就労の現状とその意義を把握しその効果や可能性についての知見を得ることを目的とする。

2. 研究の方法

2.1 調査対象施設

1) 調査対象施設の抽出

厚生労働省や経済産業省のホームページ上の施策情報や取組事例集、ウェブ記事、認知症ケア学会誌、論文等をもとに就労を行っていると考えられる高齢者介護施設を抽出した。そのうち施設概要や就労内容等がわかる23施設に対して詳細調査への協力依頼を行い、調査協力の同意が得られた4施設においてヒアリング調査を行った。

2) 調査対象施設概要

23施設の内訳としては、高齢者介護居住施設（6施設）、高齢者介護通所施設（16施設）、高齢者介護居住施設と同様の経営母体の高齢者就労支援事業所（1施設）であった。このうち、ヒアリング調査対象施設は、高齢者介護居住施設（1施設）、高齢者介護通所施設（2施設）、高齢者介護居住施設と同様の経営母体の高齢者就労支援事業所（1施設）であった。

2.2 調査方法

施策情報や取組事例集、施設の年間事業報告書、認知症ケア学会誌、論文、書籍から〈施設の概要、就労形態、就労内容、就労による効果、報酬の有無〉を把握した。また、協力の得られた4施設においては、対面またはオ

ンラインでのヒアリング調査を行った。実施年月、施設概要、回答者属性、就労形態は表1の通りである。

表1 ヒアリング調査の概要

	実施日	施設区分	回答者属性	就労内容
A事業所	2021/12/21	サ高住	施設長、事業所スタッフ、施設入居者	着物ほどこ、梱包、小物クラフト
B施設	2021/1/14	サ高住	施設スタッフ、施設入所者	飲食店ホール業務
C施設	2021/12/22	デイサービス	副センター長、施設スタッフ、施設通所者	お弁当詰め・販売、食器洗浄
D施設	2021/12/26	宅老幼所	施設長	乳幼児との交流、見守り

3. 高齢者介護施設における高齢期の就労の現状

ヒアリング調査をもとに高齢者介護施設が行う高齢期の就労を、農作業型、軽作業型、見守り型の3つに分類し、該当施設数とともに表2に示した。

表2 高齢期の就労形態

就労形態	就労形態の概要	居住施設	通所施設	事業所	合計
農作業型	畑や水耕栽培等を用いた農・園芸作業 また、農作業の仕分け・販売等を行う就労	5	3	0	8
軽作業型	小物クラフトや梱包、弁当詰めなどの手作業 や高齢者でもできる身体負荷の小さい就労	1	4	1	6
見守り型	乳幼児や障害児等の世話や 他世代交流による経験の伝承等の仕事		9	0	9

農作業型就労では居住介護施設、通所介護施設ともに身体的効果、精神心理的効果が強くみられた。また、多くの施設で足腰に負荷がかからないレイズドベッド（立ち上がり式畑）や室内の水耕栽培など高齢者に負荷がかからず気軽に取り組めるような設備上の工夫が行われていた。

軽作業型就労は、居住介護施設、通所介護施設ともに知的効果、認知的効果、精神心理的効果、社会的効果が見られた。また、スケジュール管理能力や計画性の向上といった時間に関する効果も見られ、これは日々の生活と就労との距離感に近い居住介護施設でより強く見られた。また、調査を行ったすべての施設で、現金または施設内で利用できる通貨といった、目に見える形での報酬が生じていた。

見守り型就労に関しては、定めた就労の定義によって通所介護施設のための調査となるが、知的効果、認知的効果、精神心理的効果、社会的効果が見られた。目に見える形での報酬は見られないが、役割づくりという観点からは、高齢期の就労における成果を示していると言える。

4. 高齢者介護施設における高齢期の就労の効果

4.1 作業療法・園芸療法との違いや類似点

本研究でテーマとしている就労に似たものとして、高齢者介護施設において取り組まれることも多い作業療法や園芸療法が挙げられる。この作業療法や園芸療法では応用的動作能力の維持改善、身体的効果、環境的効果、知的効果、認知的効果、精神心理的効果、社会的効果、

生きがい効果が認められている。^{iii, iv}

就労との違いや類似点を明らかにするために、調査項目の中の [本人の就労に対する意識]、[施設スタッフや家族からみた就労による影響]、[就労についての今後の意識]、[報酬の有無]、[報酬形態]、[報酬の使い道] に着目し、高齢者介護施設における高齢者の就労の効果と作業療法・園芸療法の効果との関係を整理し図1のように示した。^v また、これまでの作業療法、園芸療法では見られない高齢期の就労特有の効果を表3に整理した。

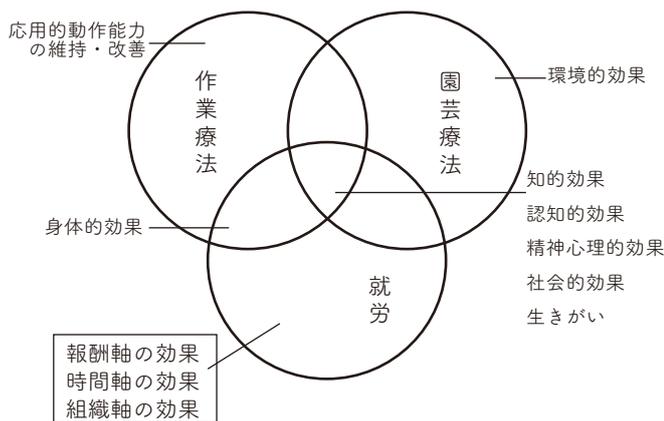


図1 高齢者介護施設における高齢期の就労の効果と作業療法・園芸療法の効果との関係

表3 高齢期の就労に特徴的な効果

報酬軸の効果	報酬によって生じる精神心理的効果や社会的効果
時間軸の効果	スケジュール管理能力の向上、経験則利用、回想
組織軸の効果	仲間形成による孤独感の軽減

4.2 就労の効果に影響を及ぼす各要因

身体的効果は、就労内容と就労時の姿勢が要因となり、就労内容が体を動かすもの、就労時の姿勢が立位の際に効果が見られる。就労内容に応じ就労場所の設備の適当な工夫を行うことで効果増大が見込まれる。

報酬軸の効果は、報酬の有無はもちろんだが、報酬の渡し方や使い道が効果の程度に影響する。報酬の渡し方や使い道が明確であるほど報酬軸の効果は大きくなり、高齢期の就労への意欲にもつながる。

時間軸の効果は、居住施設の方が強く見られる。これは、居住施設において日々の生活と就労の心理的な距離が近いことや就労が行われる場所が施設内の共有スペースや庭といった生活空間と物理的に距離が近いことで生活の中で高齢者自身が判断しスケジュール管理を行っていることによるものであると考えられる。

組織軸の効果は、就労の仕方が効果の程度に影響する。個人の特性を生かし役割分担し就労を行うことで、就労に伴うコミュニケーションや就労の成果による達成感などの感情の共有によって仲間意識が生じることによるものであると考えられる。

5. 高齢者介護施設における高齢期の就労の動機

内閣府の調査によると、健康高齢者の就労動機は「生活費を得たいから」が最も多くついで「自由に使えるお金が欲しいから」^{vi}と報酬目的の理由が上位を占めるが、高齢者介護施設利用者の就労動機は「職員の声掛け」「系列施設からの紹介」「施設の人手不足のため手伝いをお願いされた」等、受動的なものが多い傾向が見られた。要介護期には、介護される側の高齢者は受け身になりがちであるという課題はあるものの、職員の働きかけ次第で高齢者自身の主体性が引き出される可能性も十分に考えられる。

6. 結論

今回の調査によって分かったことは以下の通りである。

- ① 高齢者介護施設における高齢期の就労形態は、農作業型、軽作業型、見守り型の3つが見られた。
- ② 高齢者介護施設での高齢期の就労の特有の効果として、報酬軸・時間軸・組織軸の効果の3つが指摘できた。
- ③ 就労形態によって効果の違いはあるが、就労環境や就労の仕方の工夫を行うことで効果の増大や多様化が期待できる。
- ④ 高齢者介護施設における高齢期の就労動機として、職員の働きかけ方や関わり方もまた、重要な要素になりうる。

高齢者介護施設における高齢期の就労は、これまでの高齢者介護施設での取り組みでは見られなかった効果が期待でき、施設利用高齢者のQOLの向上や生きがいにおいて重要な役割を持つ可能性があることがわかった。

本研究では、ヒアリング調査を行った施設数が少なく定量的な効果検証を行うことができなかった。また介護度等の身体軸による、効果や環境整備への影響の検討も今後の課題である。

<謝辞>

ヒアリング調査にご協力いただいた皆様に感謝いたします。なお、本研究の一部は、科研費(基礎研究(C)課題番号19K02354 代表:藤岡泰寛)の助成を受けたものです。

<参考文献>

- i. 厚生労働省 令和3年版高齢社会白書
- ii. 社会保障審議会介護給付費分科会第176回資料1「介護分野をめぐる状況について」、2020
- iii. 金東淑(2010.3)「高齢者居住施設の日常生活における植物との関わりに関する研究」、博士学位論文、横浜国立大学
- iv. 一般社団法人日本作業療法士協会パンフレット「作業療法ってなんですか?」
- v. 原和子(2011)、リハビリテーションと園芸療法の(Horticultural Therapy)概念、原和子編、園芸療法とリハビリテーション、pp.6-19
- vi. 内閣府、平成25年度 高齢期に向けた「備え」に関する意識調査(概要版)

有馬教寧(2021)「高齢者の木以外に関する研究の現状と課題」、日本学務学会誌、Vol.21 No.3:92-102
後山恵理子(2007)「高齢者就労の特徴と課題—文献研究—」、東海学院大学紀要 1:31-45
原田隆ら(2011)「高齢者の生活習慣に関する研究(2)—余暇活動と生きがい感について—」、名古屋大学文理紀要 第11号

<注釈>

注1. 就労を仕事に従事することで現金もしくは施設や地域で使える通貨、生産物等の報酬がもらえること、また家事や見守り等の報酬がない仕事でもそのために家から出かけるものと定義した。